

# 沖縄の新たな挑戦

## 航空関連産業クラスターの核となる航空機整備事業が開始します。

### アジアのニーズを取り込む 航空関連産業クラスター

県では、航空関連産業クラスターの形成を経済政策(アジア経済戦略構想)の重点戦略に位置づけています。

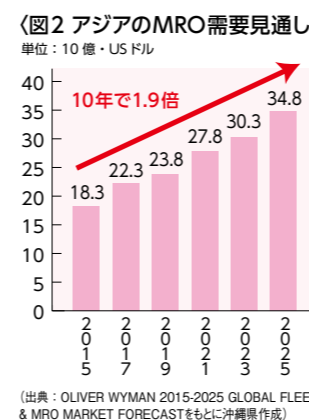
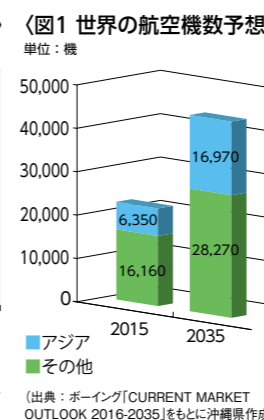
その拠点施設となる航空機整備施設が平成30年11月1日に供用開始します。いよいよ整備専門会社による事業が始まります。

今後、関連産業の集積を図る取り組みを推進するほか、アジアとの高速物流を実現する沖縄国際物流ハブと連携して、増大するアジア

### なぜ航空関連産業クラスター形成を進めるの?

のニーズを取り込み、沖縄、日本の航空関連産業の発展に貢献していきます。

航空旅客需要の増大により世界の航空機数は今後20年で倍増(図1)し、これに伴い、航空機整備需要もアジアを中心に著しく増加することが予測されています。(図2) また那覇空港は、豊富な国内路線を有するとともに、国際線やLCCの就航も急増して、第2



### 施設に入居する 整備専門会社について

航空機整備専門会社であるMRO Japan株式会社(本社・那覇市)は、これまで大阪府伊丹空港格納庫を拠点に活動していましたが、平成30年11月より沖縄の航空機整備施設に入居しています。

現在、年明け平成31年1月の操業開始に向け、準備を進めているところです。

業務としては、航空機の定時整備、航空機の信頼性や快適性向上のための各種改修、機体の塗装や運航中に発生した損傷・故障に対する修理等を行います。

また同社は、国産初のジェット旅客機「三菱リージョナルジェット(MRJ)」(図6)のアジアにおける

### 人材育成について

国立沖縄工業高等専門学校では、平成27年度から「航空技術者プログラム」を開設し、航空関連産業で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

同コースを修了した学生は、航空機整備専門会社のMRO Japan株式会社や航空会社の日本トランスオーシャン航空株式会社、ピーチアビエーション株式会社などに就職しています。

また琉球大学においても航空機を含むものづくり分野の技術者を育成しています。

航空機整備の数が増加し航空関連産業の集積が促進されると、航空機整備士も含めた航空関連産業に従事する人材育成・確保がと

推奨航空機整備会社へ選定されている。将来的に同機体のアジアの整備拠点として、航空関連産業のクラスター形成促進の一層の効果が見込まれています。

### 今後の展開

今後、航空機整備から派生して、航空機に搭載する装備品やエンジン等の部品の保管や配送、整備に関するコンサルティング、研究開発、航空機関連産業に従事する人材育成など、さまざまな需要が見込まれます。

取り込むための航空関連産業クラスター形成に向けたアクションプランを策定する予定です。同プランに掲げている①航空機整備を起点としたMRO産業の集積、②関連産業との連携による競争力強化、③人材の育成・供給機能の拡充、の3つの基本戦略に沿って関係機関と連携して取り組んでいきます。(図7)

### 航空機整備施設って何?

施設の規模は、幅約190メートル、奥行き約100メートル、高さ約33メートルとなっており、大・中型機1機、小型機3機が格納できる大きさです。(図4)



図4 施設平面図

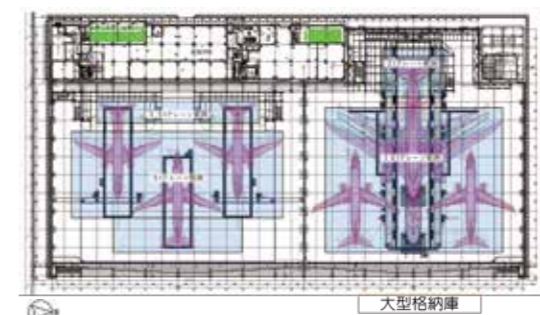
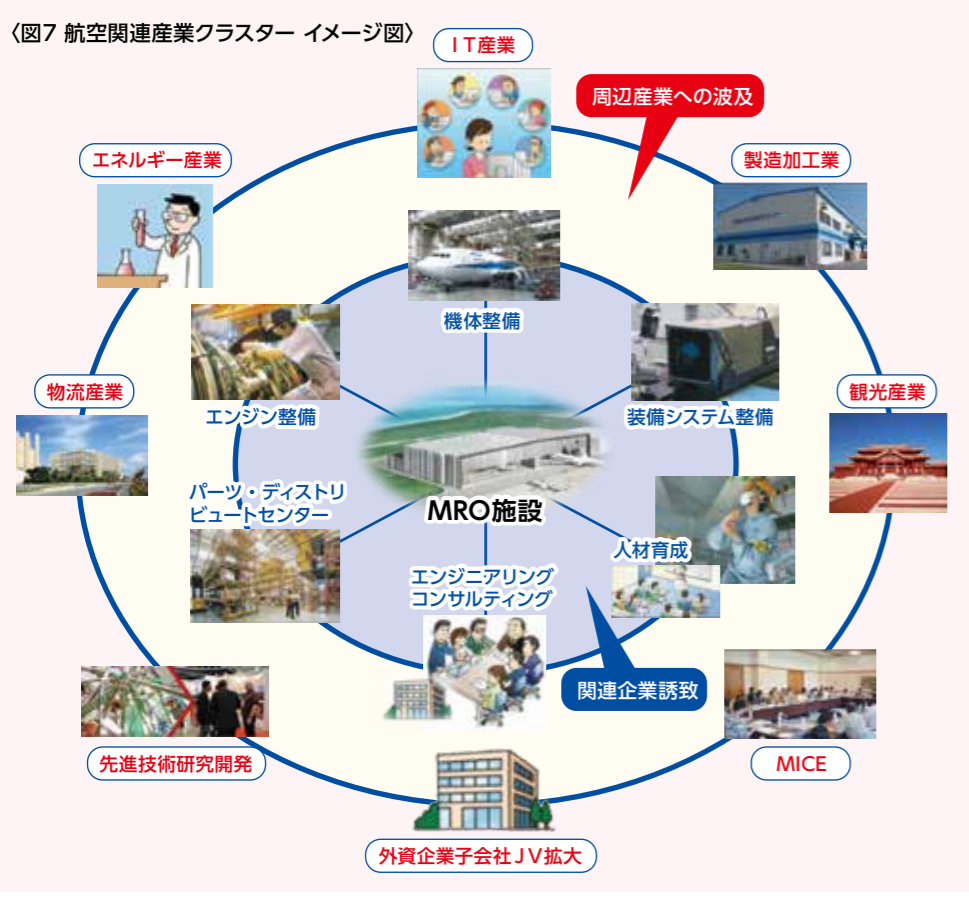


図5 機体塗装



※MROとはMaintenance(整備)、Repair(修理)、Overhaul(オーバーホール)の略で「航空機整備」のこと。

問い合わせ 企業立地推進課 電話: 098-866-2770 FAX: 098-866-2846